

## 卒業証書授与式 校長式辞

学校に生徒の声が消えてから 2 週間、生徒がいない学校の寂しさと、連日報道され続ける新型コロナウイルス関連のニュースに緊迫感を感じながら過ごしてきました。本来であれば、在校生やご来賓の皆様も出席して、心から卒業を祝い、花を添えるはずでしたが、それはかないません。しかしながら、皆様の熱い思いに後押しされ、本日このような形で第 70 回卒業証書授与式を開催するに至りました。この上ない慶びを感じるとともに、深いご理解を賜りました保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。また、おととい、3・11を迎えました。あの日から 9 年、義務教育も 9 年。先の見えないあの頃を思い起こすと、この日を迎えられて、さぞ感慨深いのではないかと推察いたします。改めて亡くなられた方々のご冥福を祈り、被災地に暮らす者として、復興を加速させるためにできることを実行しなければならぬのだということを皆様と共有させていただきたいと思えます。

さて、ただ今卒業証書を手にされた 74 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。君たちは、すばらしい生徒です。普段の様子から、中学生として模範的であることを確信する場面がたくさんありました。ひとつ例を挙げると、本校で行われた高校説明会の時です。来校されたある校長先生が次のようにおっしゃっていました。

「話を聞いている表情を見ると、いつも一生懸命で、一人一人が素直であることがよくわかりました。指導されたからそうしているのではなく、話し手を思いやる気持ちをひしひしと感じました。これまでの教員人生においても、こんなに気持ちよく話ができたことがあったかなと思うくらい心地よい時間でした。」と。私は、とても誇らしい気持ちになりました。君たちは、「すなおで豊かな心を持つ生徒」です。ラスト 2 週間の中学校生活が奪われ、規模縮小を余儀なくされた卒業式ではありますが、その心を、答辞や式歌に乗せて表現できるものと期待しています。

それでは、人生の新たな船出にあたり、ひとつだけメッセージを贈りたいと思います。「知恵を使って生きなさい」です。「知恵」とは何でしょうか。「知恵」を国語辞典で調べてみると、「事の道理や筋道をわきまえ、正しく判断する心のはたらき。」とあります。言い換えれば、「得た情報や知識を、状況を判断し、経験を生かして活用すること」でしょうか。例えば、今回の新型コロナウイルスの件で君たちに聞きたい。どう考えますか。「本当に休校にすべきだったでしょうか」「選抜高校野球は実施すべきだったでしょうか」「そもそも卒業式は行うべきだったでしょうか」。いずれも命より大事な問題ではないから、「するべきではない」と主張する人がいるかもしれませんが。一方で、「そうすることが人間らしい生き方なのだろうか」と考える人もいるかもしれませんが。これらの答えはひとつではないかもしれないし、そもそも正しい答えなど、ないのかもしれませんが。私たちは経験したことがない状況であっても、情報を得て判断し、行動しなければならないのです。では、そのような難しい場面でどうすればよいのでしょうか。そのヒントは 9 年前にありました。東日本大震災直後にツイッターに次のような書き込みがあったそうです。「物が散乱しているスーパーで、落ちている物を律儀に拾い、そして列に黙って並んでお金を払って買い物をする。運転を再開した電車で混んでいるのに妊婦に席を譲るお年寄り。この光景を見て外国人は絶句した。すごい日本！」

いかがでしょうか。君たちなら「日本人としての美しい心」「すなおで豊かな心」を生かして、先が見えない、この状況下にあっても人間らしく生きていく方法は見つけられそうな気がします。私は、困難な状況にあっても、学んだことや経験を生かして、できることを着実に実行できる人が「知恵がある人」だと思うのです。決して難しいことを求めているわけではありません。1 回や 2 回のチャレンジで解決できなくてもあ

きらめないこと。解決の糸口が見つからなかったとしても身近な人に相談するなど工夫をすること。解決できてもできなくても、それを教訓として次の場面で生かすこと。そういうプロセスを経た人は、必ず「知恵がある人」になるのだと思っています。「知恵を使って生きてください。」というのが私のメッセージです。どうか心に留めておいてください。

旅立ちの時です。今年はおリパライヤー。まもなく福島県から聖火リレーが始まります。4月からは、本校の校歌を作曲した古関裕而さんご夫妻を描いたドラマがスタートします。ワクワクすることがたくさんあります。きっと明るい未来が待っています。その明るい未来を今度は君たちが支えていくのです。君たちは、変化の激しい時代、超少子高齢化の時代を生き抜き、未来を支える存在にならなければなりません。知恵を使って明るい未来をつくってください。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様たちに卒業証書を手渡すことができ、私たち教職員も幸せです。皆様のおかげで立派に成長する姿に立ち会い、私たちも楽しい学校生活を送ることができました。本校にお子様を預けてくださりましてありがとうございます。本日出席できなかったPTA会長に代わり、多種多様なPTA活動へのご協力についても心より御礼申し上げます。また、義務教育修了までの子育て、本当にご苦労様でした。

結びに、卒業証書授与式の開催にあたり、ご尽力を賜りました皆様に感謝するとともに、本日出席されている皆様、出席がかなわなかった皆様とも一緒に、卒業生のこれからの人生に、幸多きことを祈りつつ式辞といたします。

～卒業式を終えて～

参加者を制限し、在校生、ご来賓の方々が出席しない卒業式でしたが、74名全員の卒業生が出席することができました。一人一人が立派な返事をして証書を受け取り、礼法や答辞、式歌の練習を十分に行うことはできなかったにもかかわらず、参加者の感動を呼ぶ、厳かな中に心温まる、生涯忘れられない式になりました。すばらしい74名の卒業生でした。

関係の皆様へたいへんお世話になり、心より感謝いたします。

「卒業生の輝かしい未来を祈ります！」

## 「あたりまえ」の日常を大切に

あたりまえ こんなすばらしいことを、  
みんなはなぜよろこばないのでしょうか  
あたりまえであることを  
お父さんがいる、お母さんがいる  
手が二本あって、足が二本ある  
行きたいところへ自分で歩いていける  
手をのばせばなんでもとれる  
音がきこえて声のでる  
こんなしあわせなことがあるのでしょうか  
しかし、だれもそれをよろこばない  
あたりまえだ、と笑ってすます。  
食事がたべられる  
夜になるとちゃんと眠れ、そして又朝がくる  
空気を胸いっぱいにする  
笑える、泣ける、叫ぶこともできる  
走りまわれる  
みんなあたりまえのこと  
こんなすばらしいことを、  
みんなは決してよろこばない  
そのありがたさを知っているのは、  
それを失った人たちだけ  
なぜでしょう あたりまえ

『飛鳥へ そしてまだ見ぬ子へ』より

この詩をご存じですか。作者は、井村和清さんという内科医で、1979年に32歳の若さで亡くなっています。飛鳥ちゃんという愛娘、奥さん、奥さんのお腹の中にいる「まだ見ぬ子」に、亡くなる直前まで手記を綴っていたそうです。「あたりまえ」の日常がどんなにすばらしいことなのか…。今回の休校、9年前の東日本大震災のときにも、あたりまえの日常がいかに幸せだったのかを感じました。ようやく、学校再開の見通しが見えてきています。あたりまえの学校生活がスタートしたときに充実感が味わえるような心と体の準備をしておいてほしいと願っています。

## 令和元年度の終わりに

令和元年度の修了式を無事に終えました。このような締めくくりになるとは思いもしませんでした。各教科等において、今年度中に学習できなかった部分は、4月からの授業の中で補充してまいります。保護者の皆様には、本当にお世話になりました。